



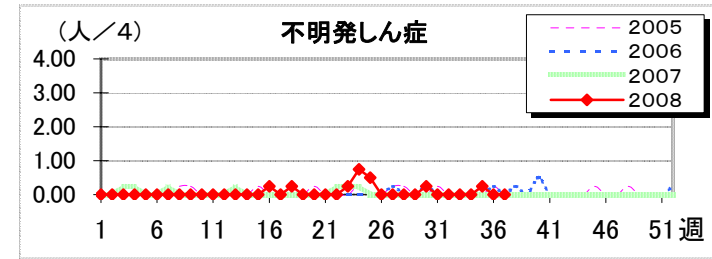
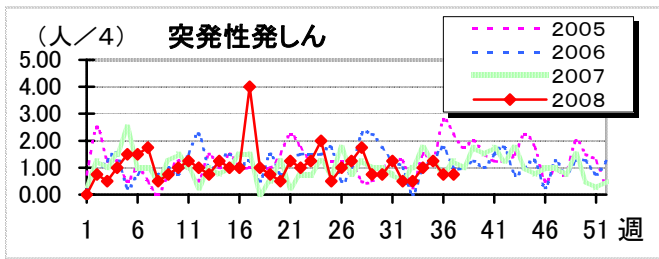
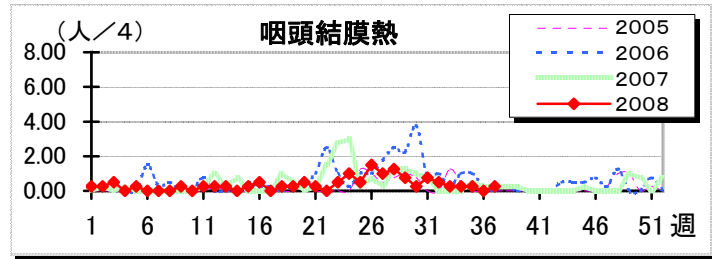
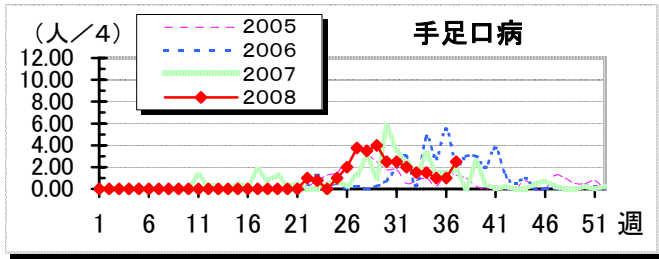
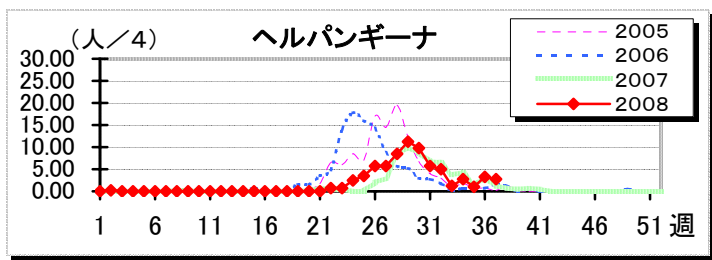
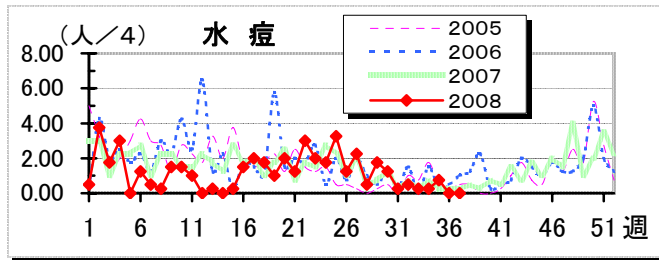
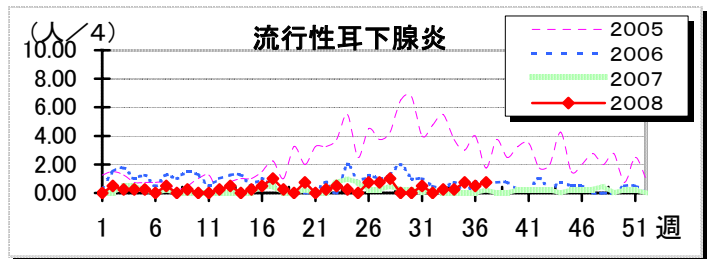
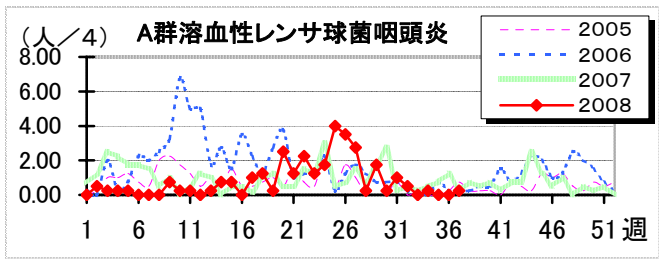
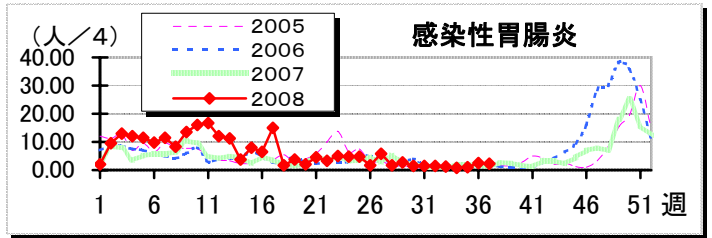
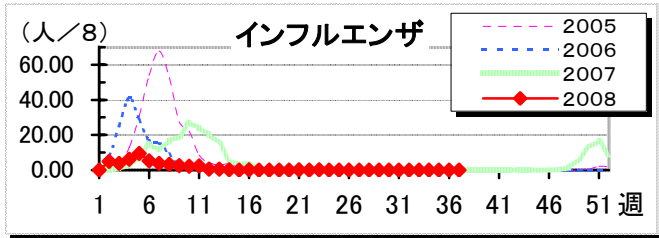
# Infectious Diseases Weekly Report City of Kita

## 感染症発生動向調査／北区感染症週報

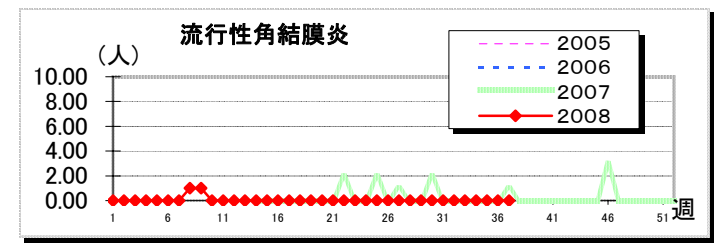
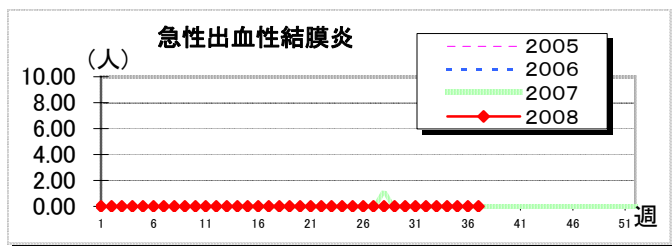
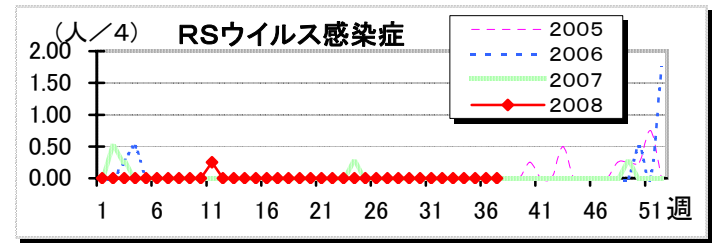
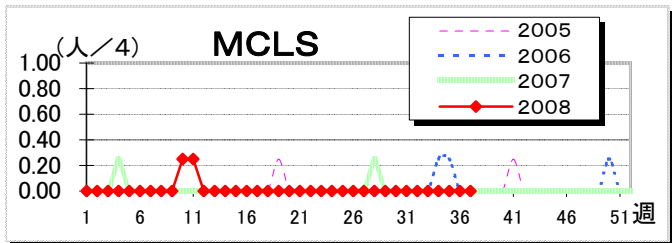
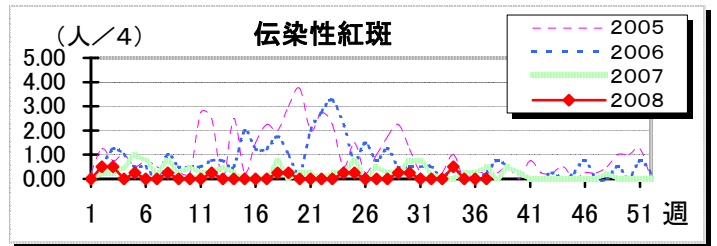
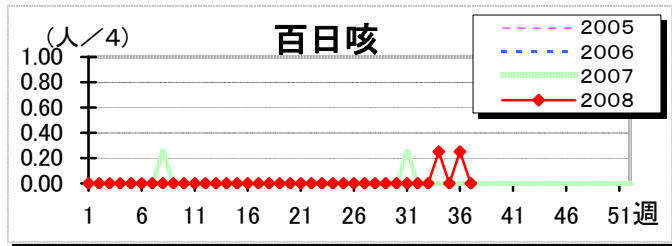
2008年37週(9月8日～9月14日)

東京都北区保健所 保健予防課 結核感染症係 電話 (3919)3101

### 1 北区感染症サーベイランス (4年間の北区一定点医療機関あたり報告人数)



- 疑似症サーベイランスが2008年7月より開始しました。  
症例のある場合には、コメントにて報告します。
- 「麻しん」、「風しん」は2008年1月から全数把握対象疾患【5類感染症】になりました。



疾病別の<北区>定点医療機関数

疾病	医療機関数	疾病	医療機関数	疾病	医療機関数
インフルエンザ	8	手足口病	4	急性出血性結膜炎	1
不明発しん症	4	伝染性紅斑		流行性角結膜炎	
MCLS		突発性発しん		性感染症	
咽頭結膜熱		百日咳			
A群溶血性レンサ球菌		ヘルパンギーナ			
感染性胃腸炎		流行性耳下腺炎			
水痘		RSウイルス感染症			

※ 最近3週間の北区一定点医療機関あたり報告人数 (区内定点からの全報告人数/北区定点医療機関数)

	不明発しん症	MCLS	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
35週	0.25	0	0	0.25	0	1	0.75	1	0	1.25	0	1	0.75	0	0	0
36週	0	0	0	0	0	2.5	0	1	0	0.75	0.25	3.25	0.5	0	0	0
37週	0	0	0	0.25	0.25	2.25	0	2.5	0	0.75	0	2.75	0.75	0	0	0

2 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出数

	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	2008年累計
麻しん	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	24
風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律から、最近の感染症発生動向を送付いたします。東京都および、厚生労働省による集計分については下記のインターネットのホームページでご覧になれます。

- 東京都感染症情報センターのホームページアドレス  
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/index-j.html>
- 厚生労働省/国立感染症研究所感染症情報センターのホームページアドレス  
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

## 今週のコメント(第37週)

- 麻しんの定期予防接種の対象者で、未接種の方は、できるだけ早くワクチン接種を受けましょう。  
麻しん風しん混合ワクチンは平成17年度から2回接種になりました。第1期(1歳児)と第2期(5~7歳未満で小学校に就学する前の1年間)の2回の接種を受けましょう。  
また、2歳から18歳の年齢の方で、麻しんに今までかかっていなかった人でワクチンも接種していない方、小学校1年生・2年生で第2期を未接種のままの方は、任意でワクチンの接種を受けることができます。  
さらに、中学1年生・高校3年生に相当する年齢の方も対象として麻しん、風しん予防接種を実施しております。  
その際、費用に関しては公費で負担いたします。  
詳しくは、下記の関連リンク先ホームページの麻しんに関する部分をご覧ください。  
<http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/service/167/016751.htm>
- 東京都全域の百日咳の定点当りの報告数は、一時期に比べ減少してきましたが、引き続き注意が必要です。  
区内の定点からの発生の報告はありませんが、今年の特徴が成人の感染が際立っていることから、内科定点の医療機関にもご協力をいたさき、情報の収集に努めていますので、今後も引き続き週報で報告していきたいと考えております。  
百日咳は、乳幼児が感染した場合は重症化することが多く、ときには死にいたることがあるので、ワクチンは確実にお受けください。成人においては、乳幼児に感染させることのないよう、咳エチケットを守るとともに、咳が長びくと感じたら百日咳を念頭に早めに医療機関を受診してください。  
詳しくは、東京都感染症情報センターのホームページをご覧ください。  
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/pertussis/index.html>
- これから秋口にかけて、山菜とりなどで野山に入る方もいらっしゃるかと存じます。  
野山には特有のダニが生息しており、そのダニに刺されることによって感染する病気があります。
  - 日本紅斑熱は、マダニに刺されることによって感染します。潜伏期は2~8日間で、全身に発疹がみられます。発熱、頭痛、倦怠感も伴います。体のどこかにマダニに刺された刺し口があるはずですが、まれに重症化し、死に至る可能性もゼロではありません。  
特に、西日本に多い病気ですので、中国地方・四国地方・九州地方の野山に行かれた方は注意してください。  
テトラサイクリンという抗生物質が効きますので、野山に行ったあとに上記のような症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。
  - ツツガムシ病は、ダニの一種であるツツガムシに刺されることによって感染します。潜伏期は5~14日で、典型的な例では39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられ、その後、数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになります。やはりテトラサイクリンという抗生物質が効きますので、上記のような症状がみられた場合は、すみやかに医療機関を受診しましょう。
- ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱といった夏場に流行する感染症は、ほぼ流行は終息してきた模様です。夏の終わりとともに、今後も報告数は減少していくでしょう。

## (参考) 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出状況【グラフ】

